

昭和大学附属烏山病院だより

あおぞら

〔発行責任者〕 病 院 長 岩波 明
〔編集責任者〕 広報委員長 常岡 俊昭
〔住所〕 〒157-8577 東京都世田谷区北烏山6-11-11
〔電話〕 03-3300-5231(代表)

第166号

[2021年6月30日発]

烏山病院における新型コロナワクチン接種について

感染管理認定看護師 池ヶ谷 訓章

烏山病院でコロナ対策を行うようになって1年以上が経過しました。コロナ対策の長期化に伴い、コロナ疲れという言葉も聞かれています。東京では感染者数の下げ止まりに加え、緊急事態宣言が解除されたことや東京オリンピック開催も控えており、今後感染者数が増加する可能性が出てきています。当院ではこれまで、「早期発見・早期対応」「持ち込まない」「広げない」「かからない」を目標に掲げ感染対策を実施してきました。患者さんやご家族、職員の協力により、医療を止めることなくここまで来ることができています。感染対策の協力を感謝申し上げます。

今年に入り、新型コロナワクチンが接種できるようになり、これまでの感染対策に加え、ワクチンという大きな武器が感染対策に加わる時代になりました。当院でも、2021年4月より、職員への新型コロナワクチン接種が開始されました。ワクチン接種を行うにあたり、接種人数の確認やワクチンの発注、ワクチンの保管、ワクチン会場の整備、副反応発生時の対応の準備など、安心・安全にワクチン接種ができるよう、ICTメンバーを中心に準備を進めてきました。ワクチン接種の準備・実施に協力いただいた部署、職員の皆様ありがとうございました。職員の接種状況としては、合計386名の職員が、ワクチン接種を完了しました（6月30日現在）。その内、重篤な副反応（入院するレベル）を認めた職員はいませんでした。

ワクチン接種後の注意点として、新型コロナワクチンを接種しても、新型コロナに感染する可能性があるということです。ワクチン接種の効果として明らかになっていることは、新型コロナ発症の予防効果が高まることや重症化を防ぐことです。そのため、ワクチン接種後もこれまで通りマスク着用、手指衛生、3密を避ける等のこれまで行ってきた基本的な感染対策は、継続していく必要があります。更に、冒頭でも述べましたが、今後感染の再拡大や変異ウイルスの拡大も懸念されており、予断を許さない状況は続くと思います。

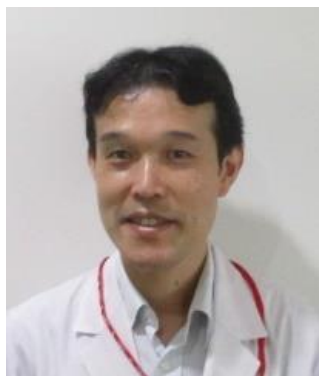
烏山病院では今後、職員だけでなく入院患者さんにもワクチン接種を積極的に行っていく予定です。今後も患者さんの安全と職員の安全を守りながら、地域の精神医療に貢献できるよう、努力していきたいと考えております。

引き続き、感染対策のご協力をお願いします。



着任のご挨拶

精神医学教室 准教授 音羽 健司



2021年6月に烏山病院に着任しました音羽健司(おとわたけし)と申します。精神科の道に入って、20数年経ちました。これまで辿ってきた道を振り返ってみると、多くの患者さんとの出会いがありました。大学病院での研修医として、慢性期の統合失調症の患者さんと毎日話をしたり、外来では強迫性障害で繰り返し自宅の鍵を確認しないと気が済まない主婦の方の治療に当たったりしたこともありました。なかなか病状が良くならないことも多いですが、意外に薬物治療が効く方もいらしたりと、いろいろと勉強になることも多かったです。その後は精神科病院、総合病院、大学病院や心理系大学院の教員などを経て今に至ります。

こちらに異動する前は、五反田にあるNTT東日本関東病院・精神神経科におりました。開放病棟のため、うつ病や双極性障害などの気分障害や認知症の治療、そして総合病院であることから、身体疾患で入院された患者さんの精神面の治療相談などにあたってきました。精神科の患者さんとは一度治療を開始しますと長い付き合いになることが多く、外来では治療以外の話題に及ぶことも多々あります。孫との関係(茶飲み友達みたいな関係)とか、社会情勢(今の国の対応は許せんとか)だとか、コロナ等等。話を聞いていますと、皆さん満足された表情で帰って行かれます。最初は診断治療が中心ですが、病状も安定して治療期間も長くなってきますと、定期生活(病状?)報告会のような感じになってくることも多いです。

私の専門分野はうつ病や不安症の臨床や研究です。研究の話をしてしますと、不安症(パニック症)の遺伝子研究というのを15年間くらい続けています。うつ病や不安症は遺伝で説明がつくのが約4割程度です。つまり、逆に言えば環境要因も大きいのです。睡眠や生活リズムを整える、しっかりと食事をとる、運動する、家族友人と話すなど日常の普通の活動を安定させることでうつ病や不安症の予防にもなります。コロナなどで生活環境が変わることで、コロナうつなど心身面への影響が大きくなったりもします。

目の前の患者さんの治療に取り組むとともに、新しい技術を使って病気の予防法や支援方法などの研究にも取り組んでみたいと考えています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

外来OT、少しずつ新規受け入れを再開しました

作業療法士 小林 崇志

お知らせが遅くなりすみません。作業療法室では、当院の外来通院者を対象にしたプログラムを行っております。まだ以前のように大勢でわいわいと作業をすることは出来ませんが、机上作業をはじめとした“個別活動”の時間の受け入れを再開しました。退院直後の生活リズム安定、デイケアを初めとした次の通所先までのステップ、何か新しいことに取り組むための機会など、それぞれの目的に合わせて活用することが可能です。参加にあたっては主治医の指示と作業療法室の見学相談が必要となりますので、気になった方は是非問い合わせてみてください。

[日時] : 毎週木曜日 9:30-11:30

[場所] : 入院棟 1階作業療法室

[費用] : 各種健康保険の適用に加え「自立支援医療制度」などがご利用頂けます
今後、新たなプログラムも始動予定です。目的に合わせてご利用ください。

デイケア向上委員会の紹介

N・Tさん

こんにちは、デイケアメンバーのN.Tです。今回は、デイケア内のプログラムのひとつである、デイケア向上委員会について報告します。この委員会では、デイケアをより良くするために話し合いやイベントなどの企画、開催などを行っています。

4月には、コロナ禍でお花見に行けないため、デイケアメンバーに桜の写真を投稿してもらい、メンバーに採点してもらう「お花見フォトコンテスト」を企画、開催しました。私はあまり盛り上がりがないと思っていましたが、順位発表の時、デイケアメンバーのあまりの盛り上がりにはびっくりしました。

6月は、デイケアの扇風機をより効果的に使うため、置き場所について話し合いをしたり、デイケアの傘の貸し出し方法について検討しました。皆いろいろな考えを持っていて、どのように話をまとめるか大変ですが、皆で協力することの大切さを学んでいます。



摂食嚥下障害看護認定看護師

看護師 有野 尚子



私は、数年前に当院の認知症病棟に配属され、嚥下障害により、食べたくても口から食べる事を断念せざるを得ない患者さんに多く関わりました。その変化に、ご家族は心を痛めながら面会されていました。当時、この分野の認定看護師は在籍しておらず、専門的な知識と技術、科学的な根拠を学び直そうと考え、この度、摂食・嚥下障害看護認定看護師の資格を取得しました。

当院は精神科病院であり、精神症状の変動や薬剤、加齢による影響で嚥下障害を生じ、結果的に栄養状態が悪化することで、さらに嚥下障害が進行する場合があります。精神疾患を患っている患者さんは、長期に渡り疾病と戦っており、疾患、病態の特性だけでなく、社会生活や生活習慣が食行動に影響を及ぼします。障害ともに生き、家族や支援者と共に地域で患者さんが望む生活を送

ることができるように、多職種と連携しながら、退院後の生活を見据えた看護を提供していきたいと思っております。

また、口から食べることが叶わなくなった患者さんや、意思表示が限られた患者さんも、隔たりのない同等の援助と倫理的配慮がなされ、穏やかに日々の生活を送ることができるよう、摂食・嚥下障害看護認定看護師として支援しています。

総合サポートセンター

～受診・入院のご相談～

受付：月曜日～金曜日・8時30分～17時

土曜日 8時30分～13時

電話：月曜日～金曜日 03-3300-5329

土曜日 03-3300-5231

◎初診受付：月曜日～土曜日・8時30分～11時

◎休診日：日曜日・本学創立記念日・年末年始

◀5月▶ 入院(前月) 外来(前月)

◆延患者数 8,423 (8,423) 6,060 (6,060)

◇一日平均患者数 280.8(280.8) 242.4(242.4)

◆診療実日数 30(31) 25 (25)

【編集後記】

マスクで過ごすのがだんだんつらい季節になってきました。ワクチン接種を受けた方も徐々に増えてきましたが、まだまだ感染対策は必須です。

今年の夏は、オリンピックが開催されます。昨年延期となり、今年も開催の有無についていろいろな意見がありました。

日本で開催されるオリンピックです、直接会場で見られなくとも、テレビで楽しみたいです。 広報委員 富田

広報委員会では、皆様のご意見ご感想をお待ちしております。連絡先は k-kouhou@ofc.showa-u.ac.jp となります。

